

代々受け継ぐ雅楽で、地元の絆を守り続けた

今年も、10月26日に行われる阿知ヶ谷「天満天神社」の例祭。子ども神輿や旅役者の演劇などで毎年盛り上がる、年に一度のお祭りです。その中で、今も昔も変わらないのが、地域で引き継がれてきた雅楽。塚本さんは、年長者として、現在の構成メンバー7人を取りまとめる、雅楽の継承者です。



【地元】の先輩に任された大役  
毎年200人以上が訪れる阿知ヶ谷天満天神社のお祭りは、夜まで一日がかりで行われます。午前10時から一時間ほど行う神事の合間には、神様に奉納する雅楽「越天楽」を演奏します。  
楽器は、笙、筆簫、龍笛、釣太鼓の4種類です。「演奏する楽人は、古くからこの地域の長男が継承してきたものでね。途絶えさせたいいけない」と思っているんだと、塚本さんは言います。

塚本さんが楽人となったのは5年前。長年、龍笛を担当していた楽人が引退し、塚本さんに跡を任せました。それまでは、子ども神輿を息子さんが担いだり、自身はお祭りを見に行ったりするく



### 天満天神社奉納雅楽の継承者 塚本好明さん (阿知ヶ谷)

【男の意地で猛練習】  
いきなり楽器を演奏できるはずもなく、一年目は、練習や本番を見学して、練習用の楽器で自主練習します。  
「楽器の中でも、龍笛が一番難しい。始めの頃は、全く

ら이었다という塚本さん。「中学時代の先輩に頼まれて、当時は断る理由がなく引き受けたんだけどね。こんなに大変だとは知らなかったよ」と笑顔でそのときの様子を振り返ります。

音が鳴らなかった。息の吹き込み方や笛の傾け方がコツなんだけど、つかめるようになってからは、むきになって音を出そうとして、酸欠で倒れそうになることもあったよ。でも演奏できないじゃあ、格好

がつかないからね」と塚本さんは、男の意地を見せます。ベテランの楽人に教わったり、テープを聴いたりして猛練習し、翌年の本番で、見事に演奏を成功させました。

【若者に引き継いでいきたい】  
現在は、20代から30代の地元の若者もメンバーに加わっています。「彼らも本番までには、ちゃんと演奏できるよ」に練習してきてくれた。頼もしい後継者だよ。でも、7人のうち3人は50代だからね。少しずつ世代交代していかないといけない。自分の後継者を見つけないと引退できないから、自分もそろそろ見つけないとなあ」と若手の参入に期待する塚本さん。  
塚本さんは今年、子ども神輿や演劇などを統括する役目も兼任し、準備などで忙しく活躍しています。  
「祭りの一カ月前から、楽人の気持ちをは合わせるための練習に入るんだ。訪れた人には、地元の仲間を守ってきた、伝統の演奏を聴いて、味わってもらいたい」と意気込みを語ってくれました。



龍笛を演奏する塚本さん



Shimadian File #40